

# 大好きなおねえちゃん

内田 結子うちだ ゆいこ

私には、大学二年生のお姉ちゃんがあります。お姉ちゃんが高校の時までは、鹿児島でいっしょに住んでいたので、たくさんいっしょに遊んで、いろいろなことを教えてもらって、毎日、その日にあつたことを話して眠っていました。でも、お姉ちゃんが大阪の大学に行くこと決まった日、私は、夜一人で泣きました。その時私は、まだ小学一年生だったのでお姉ちゃんが大学に合格しても、自分がさびしいという気もちしかありませんでした。お姉ちゃんが家にいなくなつて、しばらくは、とつてもつらかつたのをおぼえています。

お姉ちゃんも私も、チャアリーディングをしています。お姉ちゃんはチャアリーディングのことをとてもよく知っています。でも、小さい時からいろいろなことを教えてもらっていました。今でも電話でよくアドバイスをもらっています。そのお姉ちゃんが、八月に、ジャパンカップという、チャアリーディングの全国大会に出場することになりました。私はそれがうれしくて、ぜったいにおうえんに行きたいと思いました。家族も同じ気もちで、みんなでおうえんに行くことになりました。お姉ちゃんがゆうしょうできるように何かできることはないか、私は家族にそうだんしました。そして、えい町にある、かまふた神社におまいりにいくことになりました。

かまふた神社は、かまのふたを頭にのせて、入口のとりい

からおまいりする所まで、かまのふたを落とさずに行くことができれば願いがかなうと言われている場所です。私はお姉ちゃんのゆうしょうを願ってちようせんしました。かまのふたには、「ひっしょう」と「やくよけ」と書いてあつたので、私は、「ひっしょう」をえらびました。やる前は、「できるかな。落としたりどうしよう。」

ととてもどきどきしました。でも、お姉ちゃんのために、ぜったいせいこうさせなければなりません。集中して、ちよびちよび歩きで進みました。でも、十歩くらいで落としました。二回目もゆつくりゆつくり進みましたが、ちようど真ん中までいったあたりで落としてしまいました。私は泣きたくなつてきました。でも、お姉ちゃんのゆうしょうのために、「次こそはぜったい落とさないぞ。せいこうさせるぞ。」と気合いを入れてちようせんしました。三回目はついに最後まで落とさないで歩くことができました。家族や、まわりにいた人もはく手してくれました。すごうれしくて、「やった。」

と大きな声で言いました。大好きなお姉ちゃんのために、せいこうできてよかつたと心から思います。

もうすぐ全国大会本番です。お姉ちゃんにいつもありがとうの気もちをこめて、私は全力でおうえんします。